

てしかがが歴史写真館 109



張り板

昭和30年代後半(1960年代前半)ころまでは、中年以上の女性の和服姿は日常でした。

和服も、汚れると洗濯をしなければなりません。金糸、銀糸を織り込んだ高級な呉服生地であれば、専門の業者に丸洗いをしてもらうしかなかったのですが、普段着の和服であれば、縫い糸をほどこき、一片の生地にしてしまい、丁寧に洗うことができます。その洗った生地のにり付けをして“張り板”に張り付けると、パリッと乾燥します。そして、バラバラになったパーツを縫い直せば、元の和服によみがえります。

生地が磨り切れたものも、洗い張りをして裁ち切って子どもの着物にしたり、かい巻きに降ろしたりします。よくよくボロボロになり、端切れになっても、何かの繕いをするときの当て布にするまで大切に生地を使い切っていたのです。

張り板は、目の細かいかんながげで仕上がっています。そのツルツルの板で、子どもが思いつくのは滑り台です。親の目を盗んで引っ張り出して滑り台にして遊ぶ、大変重宝な道具でもあったのです。見つければ、それ相当のお仕置きは待っていましたが。

てしかがが郷土研究会(松橋)

「うれしい楽しい1年生になりました」

4月6日に行われた、弟子屈小学校入学式での一コマです。少し緊張して臨んだ式が終わり、在校生やお父さん、お母さんなどの拍手に送られて笑顔で退場しました。明日から楽しい小学校生活が始まります。
(関連記事28ページ)

◆主な内容

- 今月は町税滞納整理強調月間です……②
- 町職員の人事異動……③
- 第35回児童生徒読書感想文コンクール……④
- 第57号町議会だより第1回定例会……⑥
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設……⑧